



あのとときの常呂・写真館

VOL 89

(1985年)

昭和60年11月21日

常呂消防団第3分団（日吉）詰所兼車庫新築移転

▶「常呂消防団第3分団創設50周年記念誌 風雪」（平成2年10月1日発行）によると、日吉地区の常呂消防団第3分団の始まりは、昭和14年4月1日の消防団令施行による常呂警防団の改編（消防活動に防空、警備が追加）です。これにより、常呂警防団第3分団が創設されました。当時の団員は14人、定員は16人でした。

▶その後、昭和15年に鑑沸第2分団から腕用ポンプを譲り受け、間口2間、奥行き3間の木造平屋分団詰所が完成し、活動の拠点ができるとともに、ポンプ操法の訓練も始まりました。



*戦後、昭和22年4月1日の消防令公布に伴い、同年8月に常呂消防団に改称、現在にいたっています。

*左の写真は、昭和39年10月27日に新築移転した第3分団詰所（木造平屋 49.5㎡）

*日吉の鉄山の開発が進み、昭和19年の針田鉱業の国力鉱山操業開始に伴い、第3分団は、昭和31年1月15日の針田鉱業住宅火災（1棟）と翌32年3月21日針田鉱業飯場火災に出動しています。

（十分な機材がない中での消火活動について、元分団長の1人は、5馬力のエンジンポンプを馬に積んで現場

に行き、沼の氷が二重に張っているのを知らずに放水し、水が出なくなり、あわてて下の氷を割っている内にポンプが氷った思い出を綴っています）

*ちなみに、小型動力ポンプ積載車の配備は、昭和43年4月（10人乗り、1500cc）と昭和60年8月14日更新の2回行われています。

*下の写真は、昭和60年11月21日竣工の常呂町消防団第3分団の詰所兼車庫

①敷地 ・地番 常呂町字日吉213 ・面積 360.80㎡

②詰所兼車庫 *構造 木造モルタル平屋建1棟 *面積 115.02㎡

③サイレン *鉄骨造1基 *遠隔吹鳴装置

④小型動力ポンプ付積載車

詰所・車庫前に停車しているのは、同年8月に更新した車両

*型式 60年式 *形式 ダブルキャブ付 ディーゼルエンジン

*車種 日産ダットサントラック N-AGY-720

*最大積載量 0.75トン *乗車定員 5人 *総排気出力 2,280cc



▶この「風雪」の中では、2人の元分団長が、興味深い思い出として、戦時中、網走刑務所から脱獄した囚人逮捕協力活動に触れ、山狩りや日吉神社下のたもと、常呂川にかかる日吉橋、吉野へ通じる佐呂間道路、端野境の峠などで昼夜を通しての警備が辛かったと書いています。

*これは、昭和19年8月26日に網走刑務所を脱獄し、佐呂間町知来の山中に逃走し、鉄鉋の試し掘り跡の洞窟で、終戦も知らずに昭和21年の6月までの約2年を、熊のように穴ごもりし、その後そこを出て札幌へ行く途中、滝川市で逮捕された脱獄王と呼ばれた白鳥由栄のことを指しています。(参考：山谷一郎『網走刑務所』)